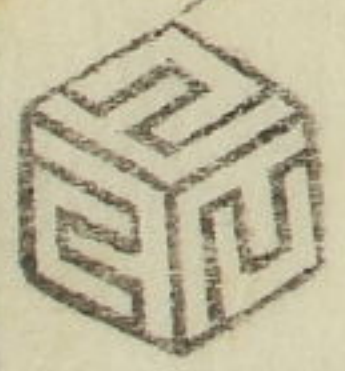


古き小唄の雑語よてつゝあつたふにこゝろやまゝこゝろえとの義ありやゆと小
女の向ふおきくもせを顔面あり押何の意と心得が僕代々其義を
説けりて蝶々の替と髪下あど小挿ともふ急ぎ長買ひひた懸らんよ
かへ念と入る語蝶の止る草をさぐる蝶搔頭の鯉青も侍ありと博識
めして演舌し小娘と合點せをその餘は考ふも無益の疑疑らる
あつたふ番つを遊北と混めて鏢鉸さ入猥語のや小憚らんもあ
とぞ百人一首のさへ入る教骨牌の時固くし草冊子の親子の中でも
讀むる爲もせとのあも余のせとせと雅言を用へて濡場あつての愛文形も
あとかの釘の墮落筋充たへる支話もこれを竟る本文の蝶々徐よ
寛く長物語を御心もそつ學せせらん

慶應四年新春刊行

柳の縁





舞妓 瓊玖瑠

大繩をいひまひ
 揚ぐるをいひまひ
 山戯をいひまひ
 流芳子の軒の
 玉ゆかり

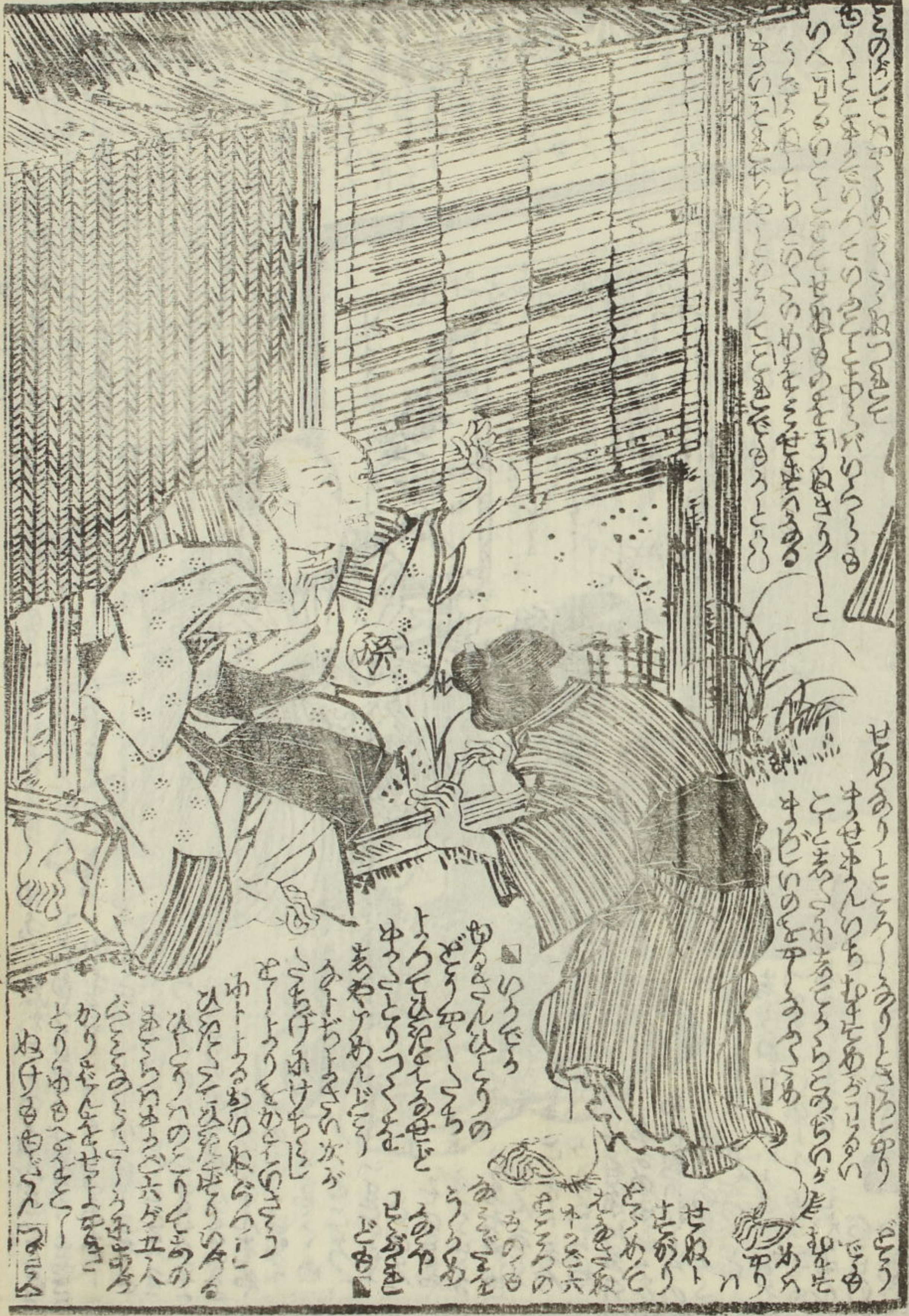
圖



燕麥尾

正月十四日 郷中の山見

網牽香
 般物の



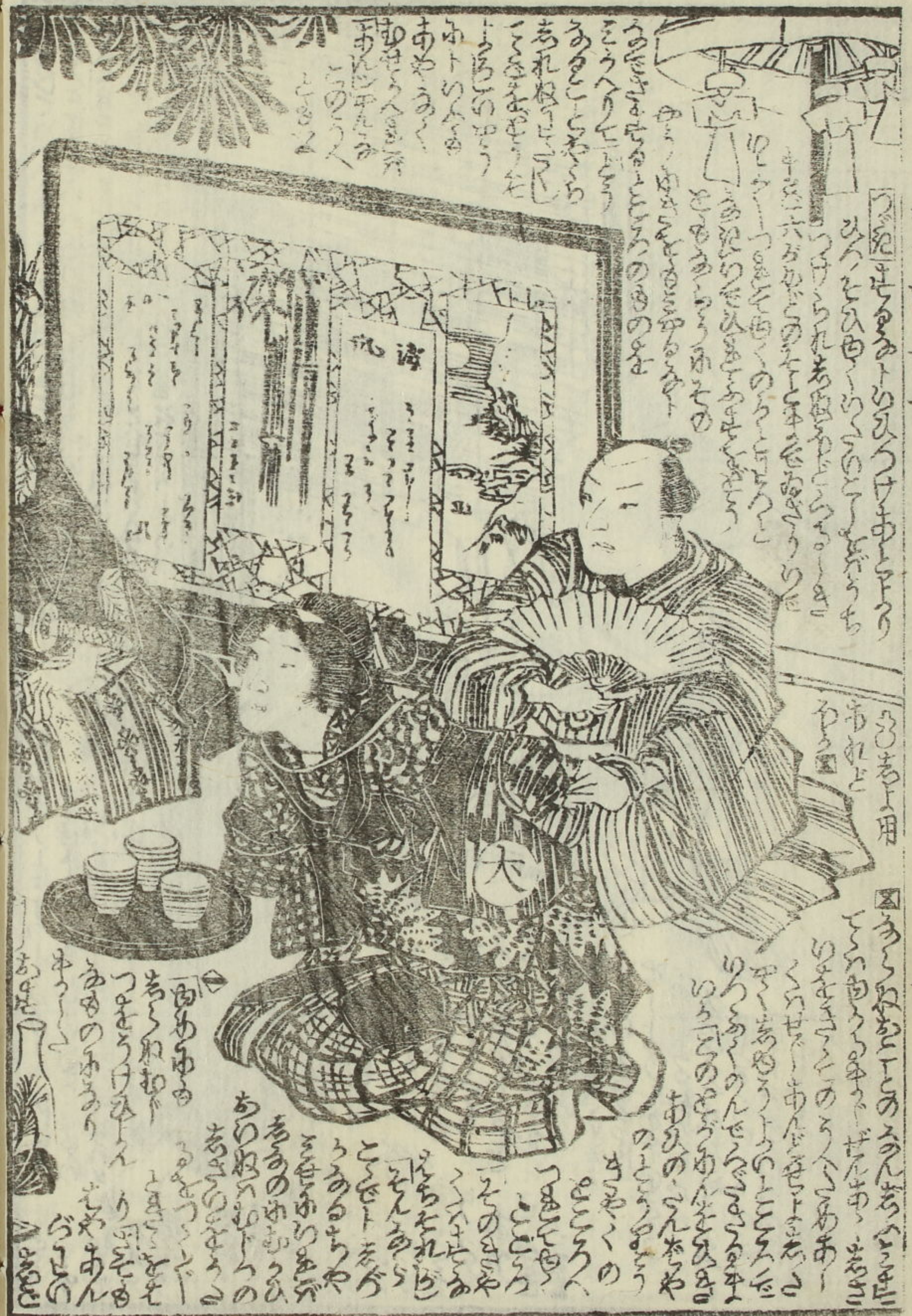
Handwritten text in a cursive style, likely a narrative or dialogue, positioned above the illustration.

Handwritten text in a cursive style, likely a narrative or dialogue, positioned below the illustration.

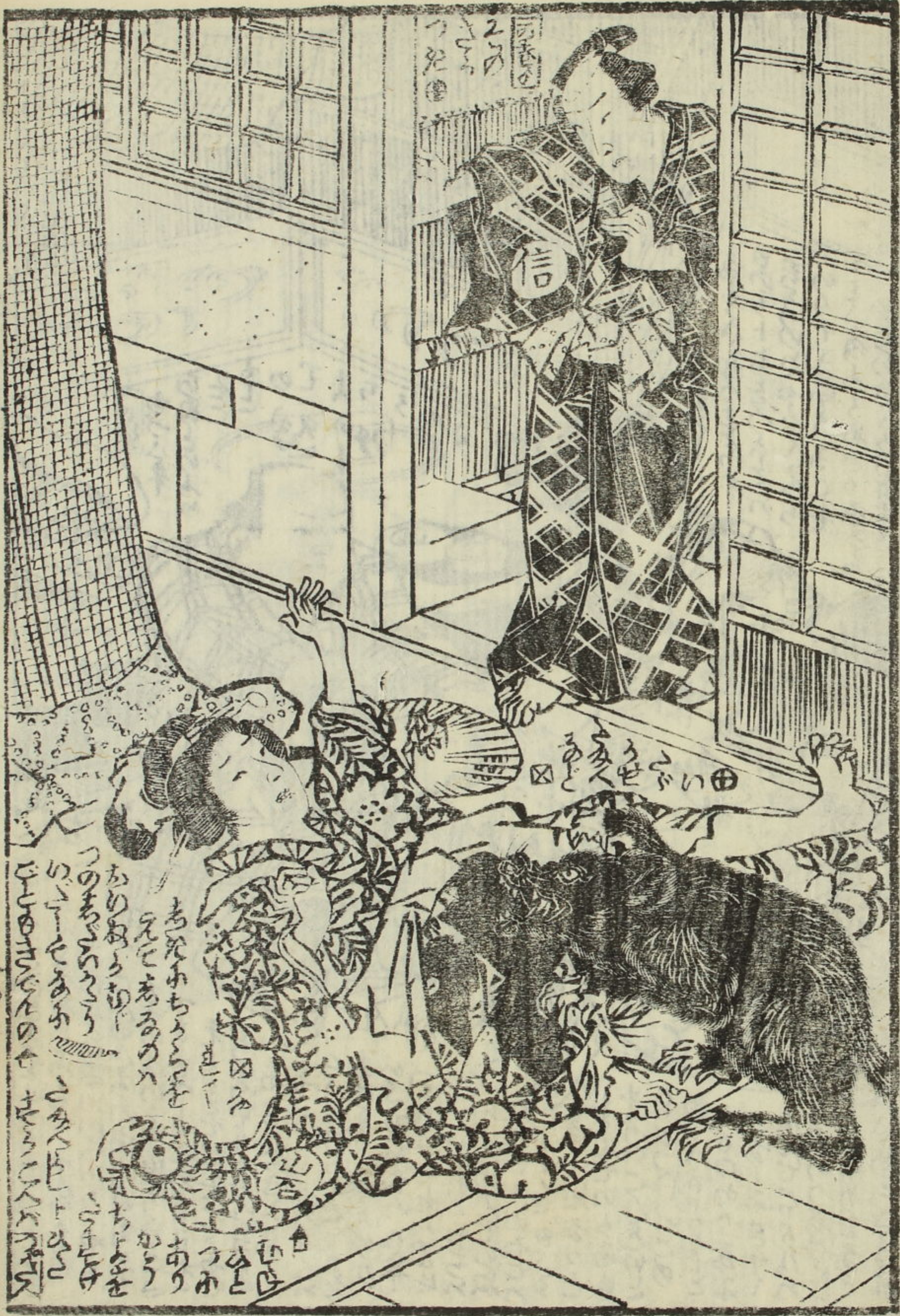
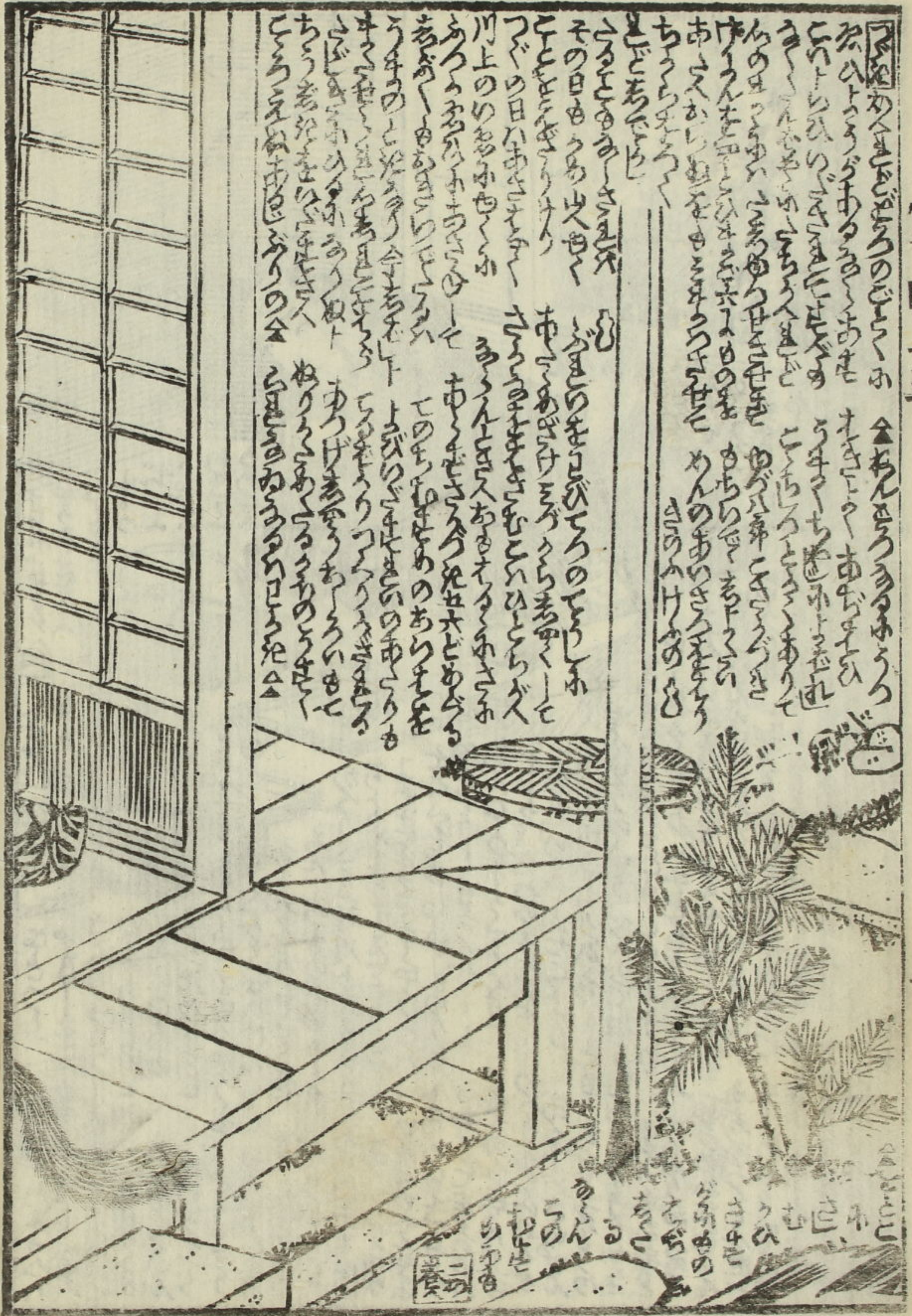


Handwritten text in a cursive style, likely a narrative or dialogue, positioned above the illustration.

Handwritten text in a cursive style, likely a narrative or dialogue, positioned below the illustration.









あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは



あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

あつちのうゑに
おのゝろふは
あつちのうゑに
おのゝろふは

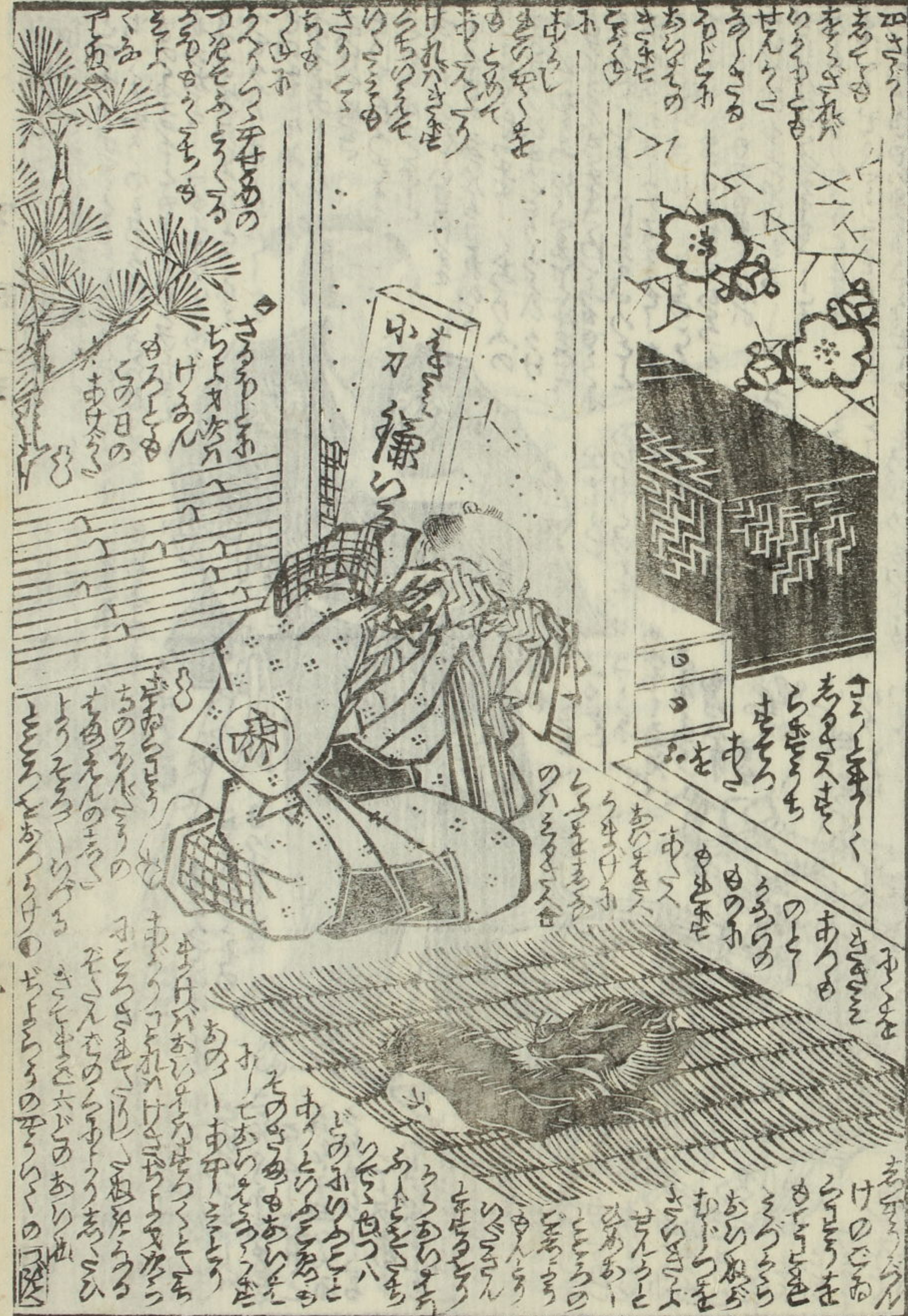


ちやうどいふやうに
 ありはまきか
 のみさきうさき
 るけれいふ
 のいへておれ
 ちやうどいふやうに
 ありはまきか
 のみさきうさき
 るけれいふ
 のいへておれ
 ちやうどいふやうに
 ありはまきか
 のみさきうさき
 るけれいふ
 のいへておれ



ちやうどいふやうに
 ありはまきか
 のみさきうさき
 るけれいふ
 のいへておれ
 ちやうどいふやうに
 ありはまきか
 のみさきうさき
 るけれいふ
 のいへておれ

ちやうどいふやうに
 ありはまきか
 のみさきうさき
 るけれいふ
 のいへておれ



ちやうどいふやうに
 ありはまきか
 のみさきうさき
 るけれいふ
 のいへておれ



種彦作國貞画

種彦作國貞画
 此の紙は種彦の筆で、國貞の画である。紙の質は非常に良いため、墨の滲れが少なく、筆の運びが非常に滑らかである。また、墨の濃淡が非常に自然で、人物の表情や衣の質感が非常にリアルに表現されている。この紙は、室町時代から江戸時代にかけて非常に人気のある紙であり、多くの名画に用いられている。



種彦の筆は、墨の濃淡が非常に自然で、筆の運びが非常に滑らかである。また、墨の濃淡が非常に自然で、筆の運びが非常に滑らかである。この紙は、室町時代から江戸時代にかけて非常に人気のある紙であり、多くの名画に用いられている。

柳蔭月朝妻

十編 大尾
 山々亭有人作
 柳朝横國貞画

藪黄鷄八幡不知

十編 大尾
 山々亭有人作
 錦朝横芳席画

阿玉ヶ池櫛月形

五編 大尾
 爲永春水作
 梅堂國貞画

八犬傳犬の奴紙

六十種亭作
 大尾 國政画
 小學行儀法 全一冊

寶母散

十種南傳馬田東画
 寶堂寺持師





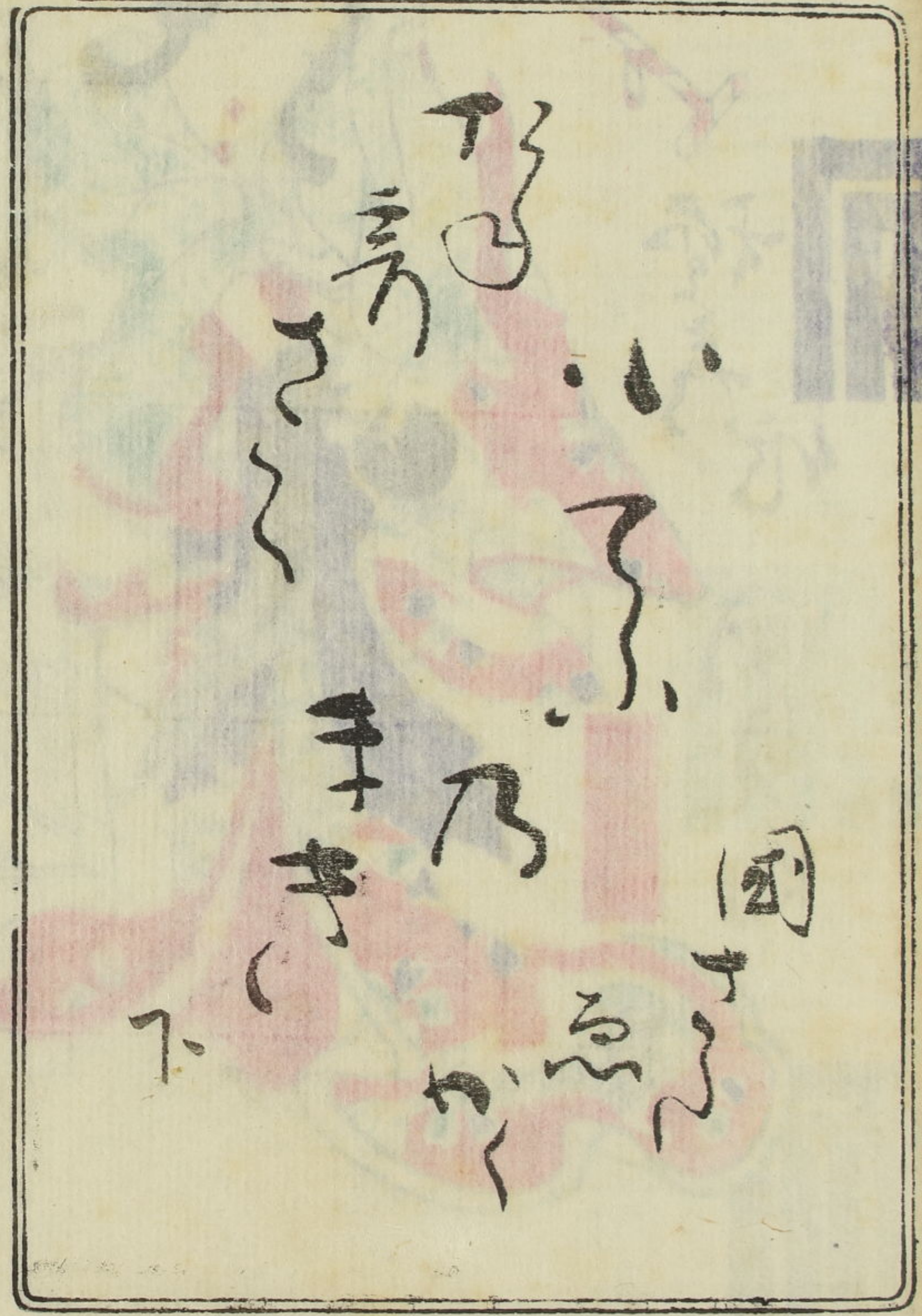
14
3157
52 (29)



上の書の内容は... ちやうど... 十六七... 十七八... 十八九... 二十...



井は... ちやうど... 十六七... 十七八... 十八九... 二十... 二十一... 二十二...







五
田
一
五

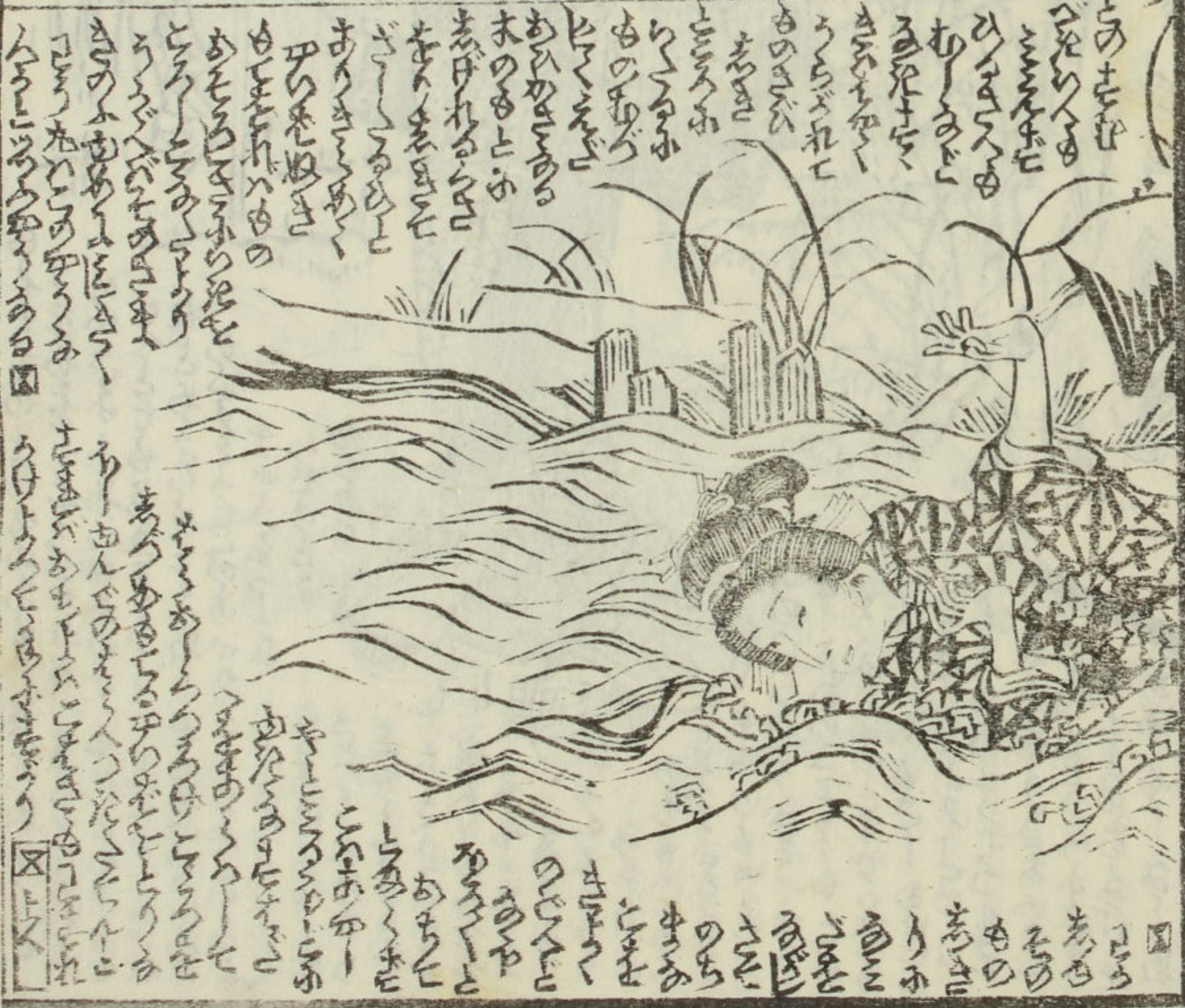
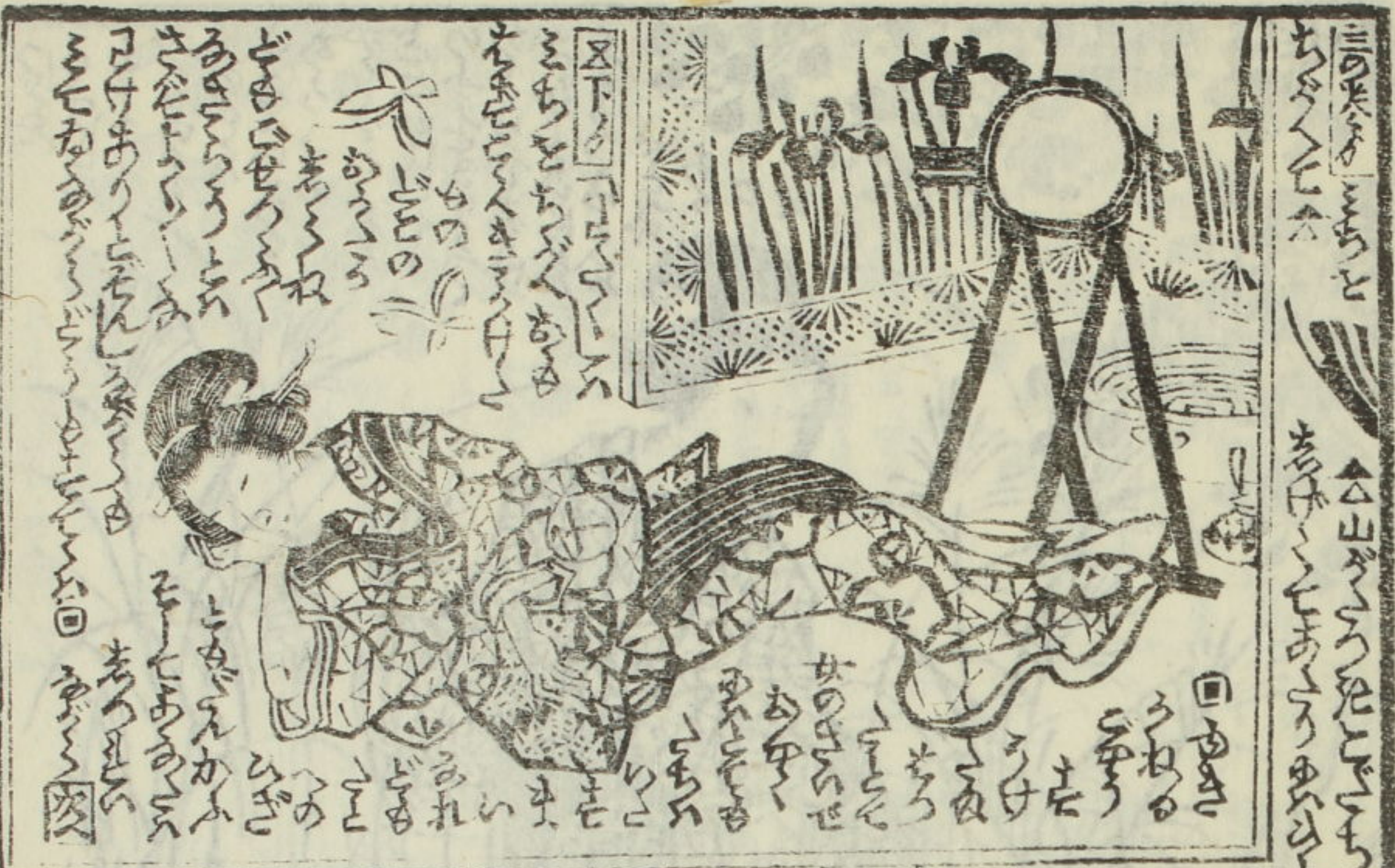
一
五



五
田
一
五

一
五





Vertical text on the left margin of the top illustration.

Vertical text on the left margin of the bottom illustration.



室町十五

十五

Horizontal text at the bottom of the page, likely a title or caption.



花の
 葉の
 影の
 光の
 風の
 雨の
 雪の
 露の
 霜の
 氷の
 火の
 雷の
 電の
 雲の
 霧の
 煙の
 塵の
 埃の
 砂の
 土の
 石の
 木の
 草の
 花の
 葉の
 影の
 光の
 風の
 雨の
 雪の
 露の
 霜の
 氷の
 火の
 雷の
 電の
 雲の
 霧の
 煙の
 塵の
 埃の
 砂の
 土の
 石の
 木の
 草の
 花の

花の
 葉の
 影の
 光の
 風の
 雨の
 雪の
 露の
 霜の
 氷の
 火の
 雷の
 電の
 雲の
 霧の
 煙の
 塵の
 埃の
 砂の
 土の
 石の
 木の
 草の
 花の
 葉の
 影の
 光の
 風の
 雨の
 雪の
 露の
 霜の
 氷の
 火の
 雷の
 電の
 雲の
 霧の
 煙の
 塵の
 埃の
 砂の
 土の
 石の
 木の
 草の
 花の



花の
 葉の
 影の
 光の
 風の
 雨の
 雪の
 露の
 霜の
 氷の
 火の
 雷の
 電の
 雲の
 霧の
 煙の
 塵の
 埃の
 砂の
 土の
 石の
 木の
 草の
 花の
 葉の
 影の
 光の
 風の
 雨の
 雪の
 露の
 霜の
 氷の
 火の
 雷の
 電の
 雲の
 霧の
 煙の
 塵の
 埃の
 砂の
 土の
 石の
 木の
 草の
 花の

花の
 葉の
 影の
 光の
 風の
 雨の
 雪の
 露の
 霜の
 氷の
 火の
 雷の
 電の
 雲の
 霧の
 煙の
 塵の
 埃の
 砂の
 土の
 石の
 木の
 草の
 花の
 葉の
 影の
 光の
 風の
 雨の
 雪の
 露の
 霜の
 氷の
 火の
 雷の
 電の
 雲の
 霧の
 煙の
 塵の
 埃の
 砂の
 土の
 石の
 木の
 草の
 花の





柳亭種彦作

歌川國貞画

厚化粧萬年嶋田
九編 春水作
大尾 國貞画

新島九尾傳
九編 春水作
大尾 國貞画

室町源氏胡蝶卷
三編 種彦作
大尾 國貞画

筆海四國聞書
十五編 種彦作
大尾 國貞画

鼠洞通夜譚
十編 種彦作
大尾 國貞画

月鴉墨画廻欄
十編 種彦作
大尾 國貞画

童謡妙々車
三編 種彦作
大尾 國貞画

花封菅玉章
十編 種彦作
大尾 國貞画

薄倂幻日記
三編 春水作
大尾 國貞画

七幼子葛飾譚
十五 種彦作
大尾 國貞画

京橋屋南傳馬町壹丁目二番地
出板 林 吉 藏



14
3157
52(30)